

高津区おはなしアーカイブ

●阿部 武夫 (あべ たけお)さん

昭和18年生まれ 73歳

川崎市高津区久末在住



◆久末市営住宅に住んだ経緯は

生まれも育ちも福島出身です。兄が実家を守り、私は15歳で上京し富士電機の川崎工場に就職しました。独身寮は川崎区の小田2丁目にありました。

当時は就職難ですから、10倍以上の倍率を勝ち抜いた120名が養成工として、3年間教育を受けました。養成工とは、今で言えば訓練工みたいなものです。そりゃあ、訓練は厳しかったですよ。富士電機も良い社員を育てるために必死だったと思います。富士電機労働組合は電機神奈川の中心的役割をし、身体障害者への取組みなどをやりました。富士電機の子会社が今の富士通です。当時は、電話機の生産が延びて

いました。昔のダイヤル式の黒電話はすべて同じ機種で、違いはダイヤルの真ん中に貼る、東芝や富士電機のマークのシールだけでした。

会社では、5年間成績トップを走り続け、結婚後に横浜の社宅に引越しました。

そして昭和46年、団地ブームの少し前の久末大谷第2市営住宅に、多数の応募者から抽選で見事、当選しました。通勤経路は、ここから蟹ヶ谷のバス停まで歩き、武蔵新城駅からは電車で川崎に出て、そこから工場までは会社専用バスでした。

会社は60歳の定年まで勤め上げましたが、住まいは昭和46年から現在に至るまで36年間、ここに住み続けています。

間取りは3DKで、団地サイズだから1畳が小さめですが、3畳、4畳半、6畳と台所と風呂付きです。この市営住宅に引越した時、何が嬉しいって、風呂があることが最高でしたね。横浜の社宅は共同風呂でしたからねえ。台所も使い勝手がかなり良くなり、友人もよく飲みに招きましたよ。

定年までには、同期も約1割の15、6名しか残っていませんでしたが、いまだに仲が良いですよ。先日も9人で同期会を開いたばかりです。

◆団地の変遷を

昭和40年、最初に久末大谷第1市営住宅ができました。私は、その後に建てられた第2市営住宅に住みました。この辺の住

宅は南向きとなっているのですが、第2住宅は地盤の関係で、西向きに建てられました。

引越して来たばかりの頃は、とにかくここは地主の家と市営住宅以外、何もありませんでした。全部、畑と田んぼです。この上の明石穂という地名の先の場所に店が1〜3軒あったくらいです。

当時引越して来た人達は同じ30歳代後半でしたね。子どもたちも皆、同じ歳頃で、久末小学校や東橋中学校に進学し、昭和57年、ここの子どもたちで少年野球チームも結成しました。

現在の集会所は、卓球台やマッサージ椅子やエアロバイクも置いてある立派な建物ですが、平成15年までは、古い集会所を使っていました。



この集会所は、昭和40年5月の久末・灰津波事件のときに崩壊しなかった建物か、もしくは流れ着いた住宅を使用したと言われています。実は、久末の大谷戸は川崎の方の発電所の残灰で埋め立て、宅地造成したのですが、この近所に積み上げられた灰が、大雨で津波のように流れて人災を引き

起こしました。亡くなった方も多くいます（注1）。

10年前に住宅の耐震工事を施工しました。

私は、ずっと最上階の6階に住んでいるのですが、冬は暖かくても、夏はやはり断熱材が入っていないからか、暑いねえ(笑)。屋根に水が溜まるせいなのか、蚊も出るんだよねえ。6階なのに不思議だよ。

5年前には、ネズミ騒動がありました。どうも、第1住宅の建て直しのときに、第2住宅にネズミが一斉移動したようです。ネズミを見た第2住宅の住民が、大騒ぎして「そっちに逃げたが大丈夫か！」なんて声を掛け合い、ネズミの習性などもよくわかりましたよ(笑)。その甲斐あってか駆除し、今はもう出なくなりましたね。

◆現在の団地の様子や自治会活動

現在、第2住宅では、120世帯の約240人が住んでおり、その半数以上が60歳以上です。40歳代の住人はほとんどいなくて、子育て家族もほんの数軒です。本当に高齢者ばかりになってしまいました。

住人たちは皆、買い物は自家用車で大きなスーパーへ買出しに行ったり、私は使いませんが、生協の宅配を使ったりしてます。自家用車を持ってない高齢者は、バスで買い物に行き、帰りは荷物が重かったりするとタクシーです。

現在の第2住宅内の自治会では、平成19年から「高齢者の引きこもりを無くそう！皆でコミュニケーションを取っていきましょう！」という発想のもとに、いろいろな活動に取り組みを始めました。

最初はいろいろと大変でした。60歳以上なら誰でも入会できる「寿会」という集まりを立ち上げました。私が寿会会長になり、ゴミの収集所の空き缶集めからも、活動費をやりくりしました。

第1と第2の合同作業は住宅前の大谷公園の掃除くらいですが、私ら第2は階段掃除や草刈りなど、自分の周辺は寿会の中でも「すぐやる会」という、できる人がやっ飛ばさうという実働隊を組みました。木々の伐採などもお手のものですよ。なんたって昔が電機屋ですから、伸びた木々が電線にかかりそうだと心配でしょうがなくてねえ(笑)。

またレクリエーションのスポーツを通して皆で楽しんでいこうと、グランドゴルフのチームも結成しました。これが大成功でした。ゲートボールのような団体プレーは我々には合わないからと個人プレーの競技を選んだことと、各自がゴルフのクラブなど道具を揃えたことが良かったのでしょう。とにかく、試合に出ると強かったのです。現在は、メンバーは21名で、そのうち女性性は13名もいますよ。

チームプレーではありませんので、本当に皆のびのびとプレーができますよ(笑)。

今回は、グランドゴルフと餅つき大会の合同イベントも計画中です。

年間行事は、初打ちグランドゴルフ大会、七夕会、忘年会などで、その季節に合わせて富士山のグランドゴルフ研修会と活動を広げています。毎週の将棋会は、私が仲間の名前を木札で作って盛り上がっていますよ(笑)。

以前、子どもの多かった頃は、住宅前の大谷公園も、餅つきや羽根つき大会、バドミントンやソフトボールやバレーボール大会でもフルに使っていました。

◆これからのこの住宅への思いは

故郷の福島は地震や原発と今、大変な状況ですが実家は今でも住める状態です。でも久末に住んで46年、故郷よりもこちらの暮らしの方がずっと長くなってしまいました。

寿会会長になったのも、自分は会社時代に労働組合で鍛えられましたから、「やれる人がやる」という考え方はごく当然です。「すぐやる会」に続き、「おしゃべり会」もこれから立ち上げようと画策中です。

住人の孤独死を心配して、毎日ドアを叩いてまわるのはお互いに荷が重いです。「あの人、最近大丈夫かな？」と、お互いが顔を合わせてしゃべる中で、気遣うのが自然だと思います。これからは、自治会のメンバーと民生委員の3人くらいで1チームを

作り、2チームでいろいろと実行していけたら「寿会」も充分だなあとと思います。

おせっかいと思われても、横の繋がりを大切に、住人が毎日元気で暮らせるのが一番ですよね。

(平成28年11月18日取材)

注1 久末灰津波事件

(出典 川崎市史 通史編4上)

北西部の急激な人口急増は「乱開発」と呼ばれる悪質で危険な宅地開発を引き起こし、それに起因する災害が発生するようになった。四十年六月六日午後六時五十分、川崎市久末大谷戸で大規模な土砂崩れ事故が発生した。この事故で死者二十四人、重軽傷十七人を出し、十四棟の家屋が倒壊した。その原因は、火力発電所やセメント工場などで残りかすとして発生するフライアッシュ（軽質の灰）が丘陵の傾斜地に捨てられて土砂となって堆積していたためであった。その土砂は降雨によって幅約五十～六十メートル、長さ二百メートルにわたって住宅地に押し寄せたもので、「流土により押し倒された二階建家屋の内四棟は大破傾斜し一階は土砂で埋没した外、二階建八棟は大破壊されて家屋の原型を残さずに東海・流出又は埋没して、その位置も判然としない状況であり、篠つく雨に打たれて約五万立米の流土砂はあたかも泥海を現出したような惨状を呈した。